

## 2. 協議体WG報告

2024

3/15

## 第1回まちづくり協議体

那須塩原駅周辺まちづくり協議体発足

那須塩原駅周辺を魅力的なエリアにするための素材・視点・論点を収集

これまでの検討とまちづくりプラン

テーマ別にグループワーク

6/12

## 第2回まちづくり協議体

第1回まちづくり協議体のグループワーク結果をもとに、R6年度の協議体および協議体WGで議論する「協議体ビジョン」「協議体アジェンダ」を作成。

協議体ビジョンと協議体アジェンダ

エリアごとの拠点施設についてグループワーク

8/23

## 第1回協議体WG

拠点施設

景観

那須塩原駅周辺の目指す“まちの姿”

駅前デッキの整備

駅周辺の高さ制限

駅前広場の将来像

駅周辺の民有地含めた土地利用のあり方

拠点施設のあり方

疏水の活用

9/29

## 第1回キャラバン

『駅直結ウォークアブル空間の意味と可能性』

三浦詩乃（中央大学）

11/1-2

## 公共空間利活用社会実験 D'harvest Walk Fest

12/18

## 第2回協議体WG

歩行者動線

土地利用

駅前広場及び東那須野大通り周辺の歩行者回遊動線

東那須野大通り沿道及び周辺の土地利用

社会実験の報告

現状の交通実態や課題

段階的まちづくり

歩いて暮らす  
駅前生活圏

駅前生活圏のハブとなる  
Well Nasu Hub

歩行者回遊  
ネットワーク

東那須野大通り・拠点施設候補地の暫定運用

周辺の土地利用

2025

2/8

## 第1回まちづくりレクチャー

『民間主体のエリアマネジメントのススメ』

泉英明（ハートビートプラン）

2/18

## 第3回協議体WG

交通計画

広域における駅周辺の位置づけ

駅周辺の交通計画と将来像

広域にみる駅周辺の位置づけ

現状の駅前広場の課題

東西駅前の利用形態

公共交通の現状

交通の方向性

3/25

## 第3回まちづくり協議体

おおまかな駅周辺の将来像を提示

駅周辺の交通網の方向性

駅周辺の土地利用の方向性

駅周辺の拠点施設の方向性

将来像、コンセプトについてグループワーク





## 6つの協議体アジェンダ

#01  
交通

#02  
空間・土地利用

#03  
拠点施設・  
ランドマーク

#04  
魅力・  
コンテンツ

#05  
仕組み

#06  
景観形成  
景観維持

まちづくりのコン  
セプトは？

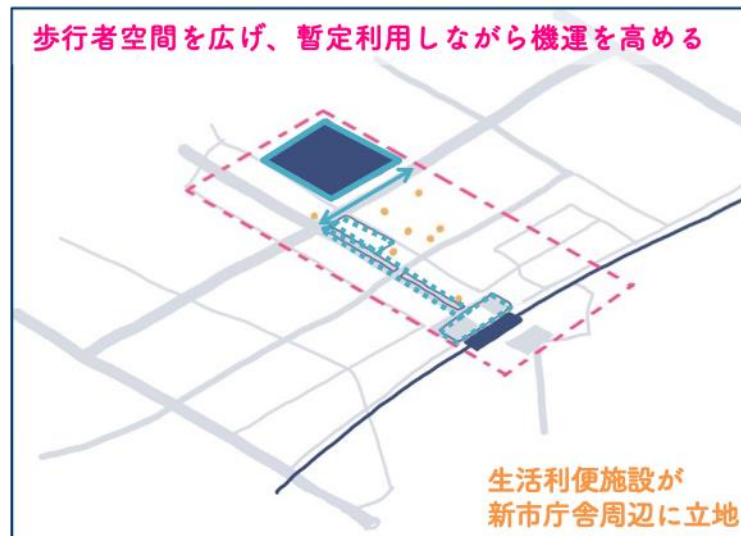
民間発意で駅前を使いながら進める  
「段階的なまちづくり」

2024年度（現在）



STEP1: 新市庁舎整備(2027年度)

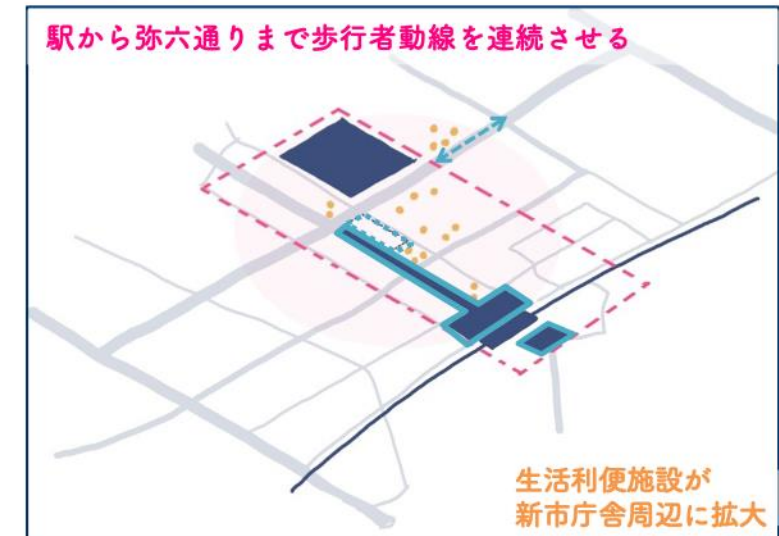
歩行者空間を広げ、暫定利用しながら機運を高める



生活利便施設が  
新市庁舎周辺に立地

STEP2

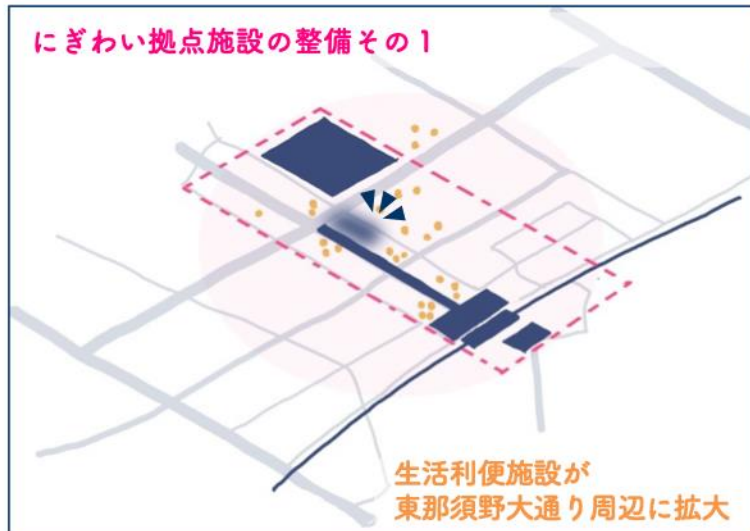
駅から弥六通りまで歩行者動線を連続させる



生活利便施設が  
新市庁舎周辺に拡大

STEP3

にぎわい拠点施設の整備その1



生活利便施設が  
東那須野大通り周辺に拡大

STEP4

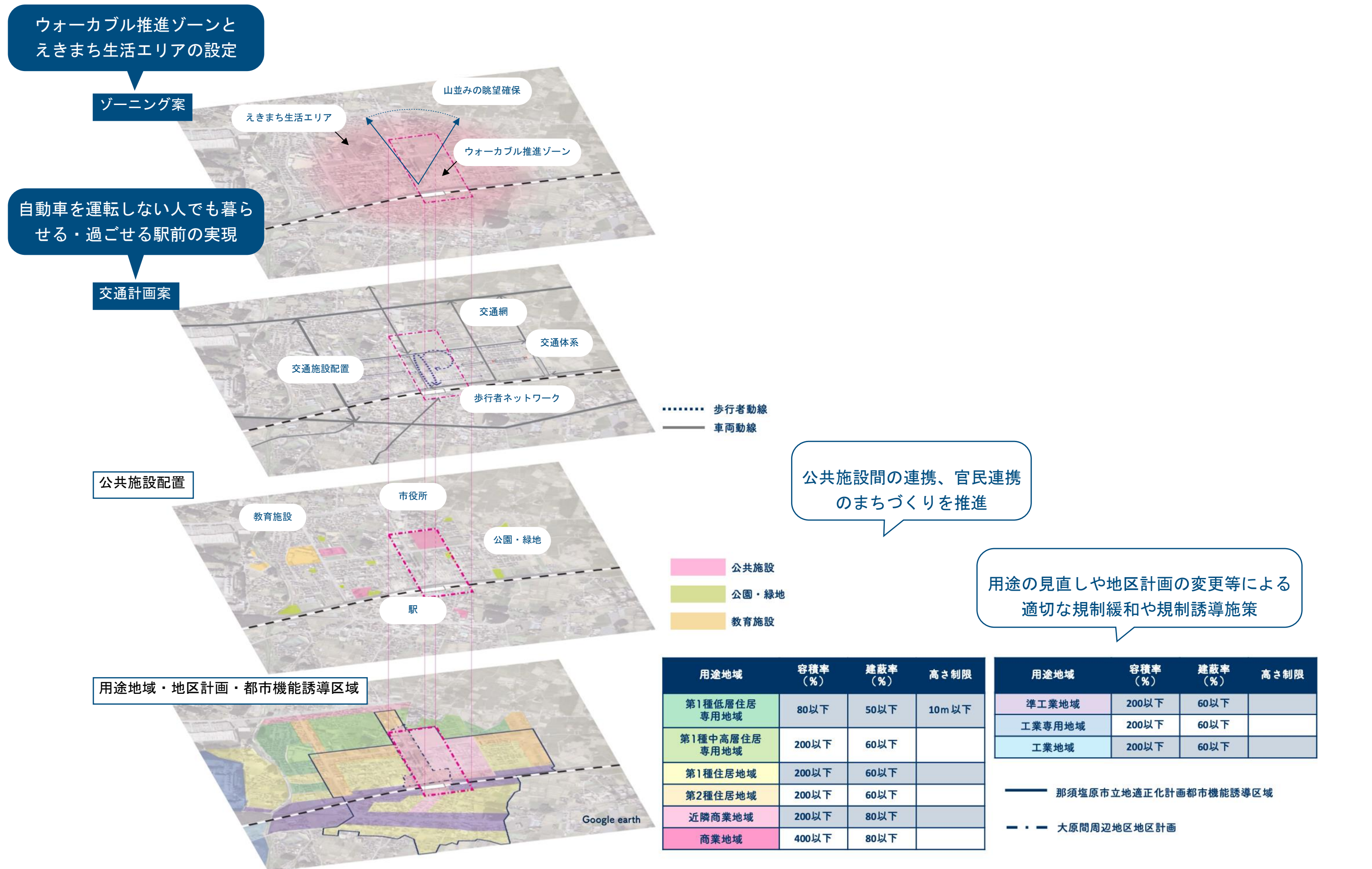
にぎわい拠点施設の整備その2



生活利便施設が  
那須塩原駅周辺に拡大

駅まち生活エリアの確立(2050年)





第3回  
まちづくり  
協議体

# まちづくりに**タイトル**をつける

(例) 「やってみたい」が「叶う」まち

(例) タイトルへ込めた思い

疏水、開拓でまちをつくってきた土地柄  
チャレンジができる環境があり人がいる  
大小様々なやってみたいが実現するまち

まちづくりの理念

#1 世界中で  
ここにしかない駅前へ

#2 日常的に人が集い、  
また訪れたくなる駅前へ

#3 環境、福祉、多様性に  
本気で取り組む駅前へ

3つの協議体ビジョン

#01  
交通

#02  
空間・土地利用

#03  
拠点施設・  
ランドマーク

#04  
魅力・  
コンテンツ

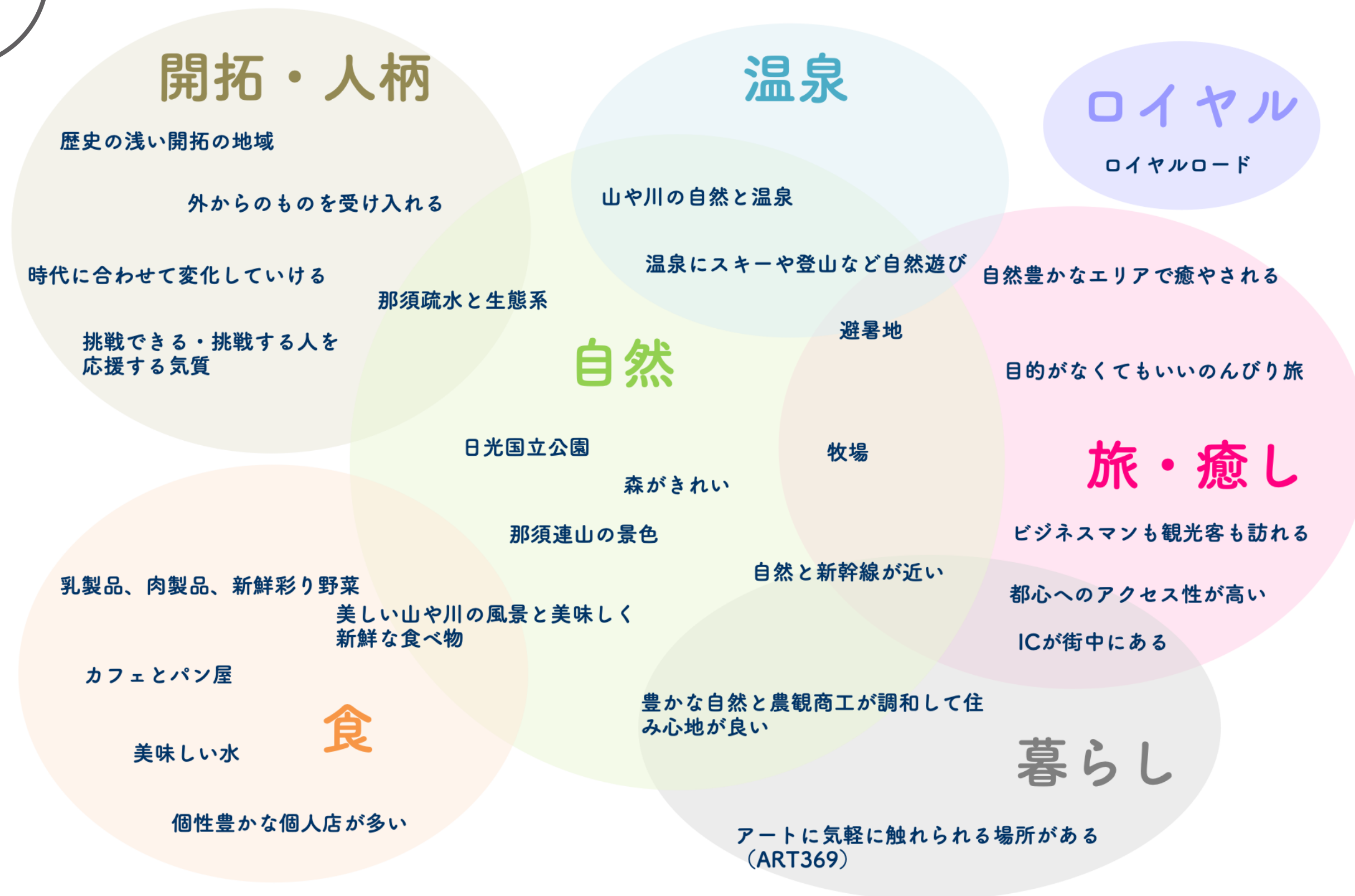
#05  
仕組み

#06  
景観形成  
景観維持

6つの協議体アジェンダ

第3回  
まちづくり  
協議体

# まちづくりにタイトルをつける



第3回  
まちづくり  
協議体

# まちづくりにタイトルをつける

**えきまち生活エリア：**

ウォーカブル推進ゾーンを中心に歩行者ネットワークの拡充と暮らしやすい土地利用の促進を図る

平日と休日で機能が異なる  
フレキシブルなまちの食堂  
がほしい

県道55号

公園

公園

モビリティの拠点  
があると良い

"遊べる東那須野大通り"  
をつくりたい

医療系

那須塩原市役所

住宅街

公園

←イオンタウン

公園のような駅前

宿泊系

新しい働き方ができる  
低層のビジネス街があると良  
いかもしれない

公園

警察

公園

飲食系

那須塩原駅

小学校

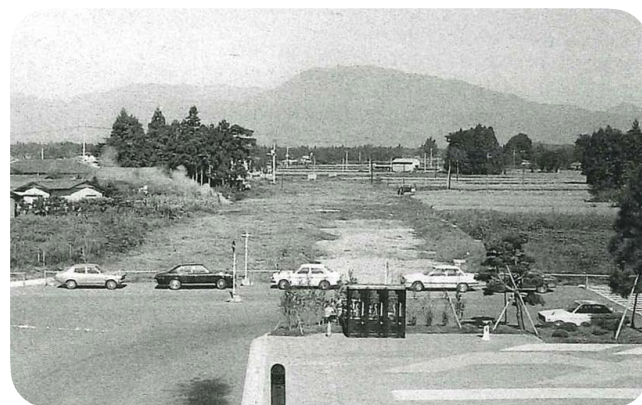
公園

**ウォーカブル推進ゾーン**

駅・市庁舎・東那須野大通りを中心に那須塩原駅周辺まちづくりビジョンを体現し先行的に投資を促すエリアで  
拠点施設の集積とウォーカブルを推進

第3回  
まちづくり  
協議体

# まちづくりにタイトルをつける



開拓の歴史を想う山並みと  
疏水の記憶を辿る水の風景。  
緑豊かな学びのフィールド。

#1 世界中で  
ここにしかない駅前へ



おいしいカフェやマルシェ。  
友だちと、家族と。  
今日も明日も、わたしの居場所。

#2 日常的に人が集い、  
また訪れたくなる駅前へ



アート、スポーツ、自由な振る舞い。  
多様な人が集う場所。  
365日、ずっとあなたの居場所。

#3 環境、福祉、多様性に  
本気で取り組む駅前へ

協議体WGでの議論をもとに描いたイメージです

(参考資料)

# 駅周辺まちづくりに関わる特徴や課題

## ■那須塩原市における移動の課題

### 地域住民

外出手段として「自動車を主に自分で運転している」人が82%を占めている一方で、そのうちの約25%は「無理に自動車を使わなくていいライフスタイル」を希望している。

### 観光客

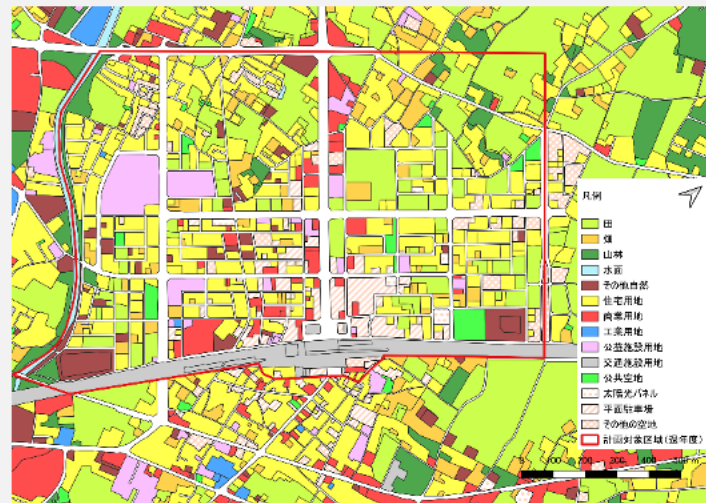
現状は9割以上が自家用車を用いて移動しており、公共交通の利用は少ない。一方で全国的に高齢者の免許返納率は増加し、若い世代の自動車免許所有率は減少しており、今後は車を運転する移動に依存しない移動手段の需要が高まると考えられる。

自動車を運転しなくても暮らせる・過ごせる環境の創出が必要

第2次那須塩原市地域公共交通計画（令和5年3月）  
那須塩原市観光マスタープラン（令和3年3月）

## ■駅周辺の土地利用

- ・駅西口の南側や駅東口周辺に住宅用地が集積しており、駅西口北側の土地区画整理部分は住宅用地と田が混在している
- ・商業用地は東那須野大通り沿いや国道4号線沿いにみられる
- ・商業系用途地域全体における土地利用の面積割合は、商業用地としての利用は約10%にとどまり、約20%が平面駐車場となっており、商業の集積を図るエリアでありながら、実態は低未利用地の割合が高い。



那須塩原駅周辺における土地利用



商業系用途地域全体における土地利用

那須塩原市都市計画基礎調査（令和2年度）

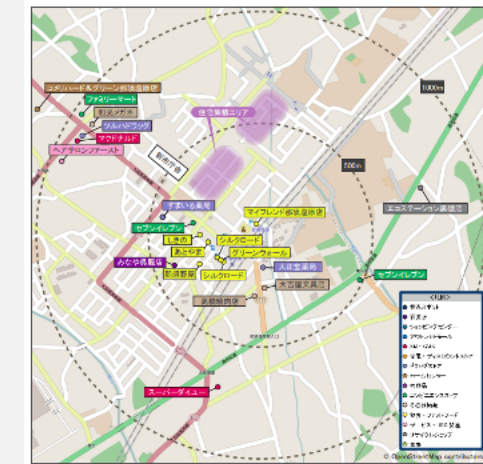
駅周辺の低未利用地の活用と  
商業系用途地域における商業用地としての利用率を上げるのが重要

## ■拠点施設と駅周辺

### 暮らしの拠点としての駅周辺

- ・市内の転入者・転出者の推移（外国人含む）はH30年以降転入超過に転じており、引き続き転入者が増えることが予想される中で市の広域拠点に位置付けられる駅周辺は商業施設や文化・交流施設、福祉施設が不足しており、暮らしの拠点性が低い

那須塩原駅周辺における商業施設の立地状況

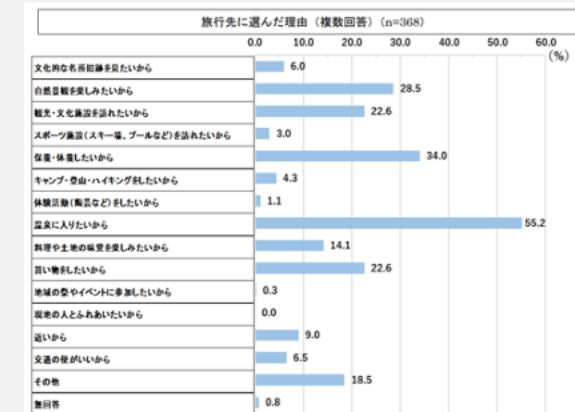
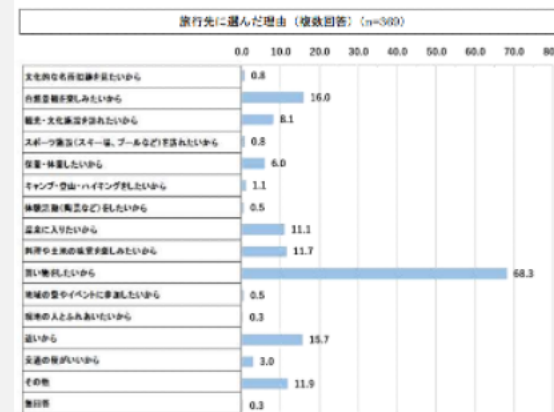


那須塩原駅周辺地区都市再生整備計画策定に係る調査検討業務委託報告書（一部修正）

### 観光の拠点としての駅周辺

- ・那須エリアの観光客は、道の駅やアウトレットなどの商業施設への来訪や宿泊施設での宿泊を主目的としており、その間の立ち寄り観光施設数は0~1と少ない。那須塩原市観光マスタープラン（令和3年3月）

- ・日帰り客の多くが買い物を目的としており、次いで自然景観を目的とする人も散見される
- ・宿泊客は温泉や保養・休養、自然景観を楽しむなど那須エリアの自然を求める人が多い



令和5年度観光動態調査報告書（令和6年3月）

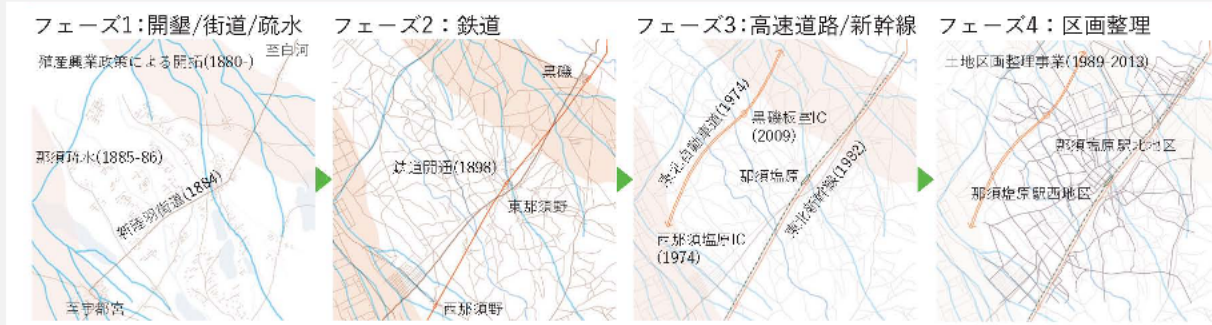
暮らしと拠点となるための施設でありながら、観光客が立ち寄って那須エリアの周遊を促すような施設整備を両立させ、駅周辺においても滞在時間を増やすことが必要

# 駅周辺まちづくりに関わる特徴や課題

## ■那須塩原市の魅力を体現

### 開拓の歴史と駅前の履歴

近代以降、開拓と疏水など大規模な社会基盤整備が行われ、産業や生活文化が築かれてきた

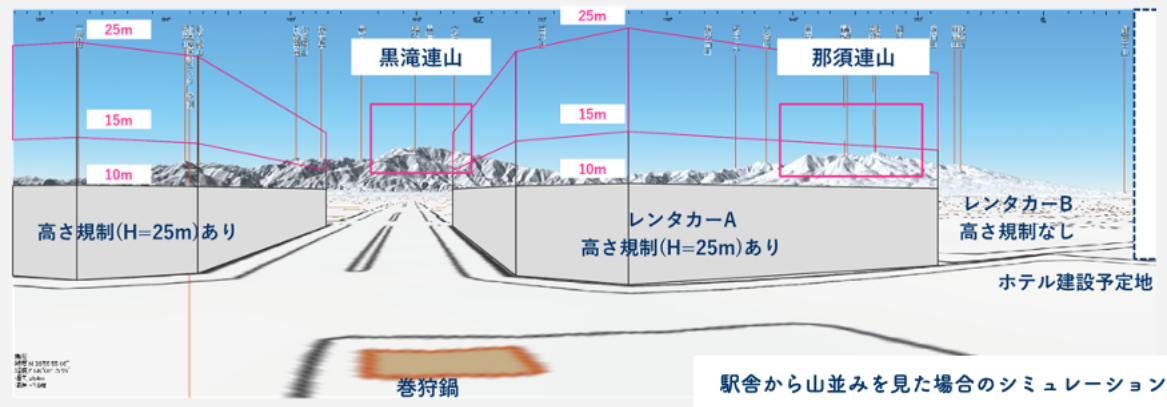


まちの履歴を踏まえたまちづくり

### 景観

市民の72.2%が駅周辺の印象に対し「駅を降りた時に山並みが見えるなど景観が良い」という回答(※)がある一方で、現行の高さ規制では山並みを保全することが困難

※那須塩原駅周辺まちづくりビジョンに関するアンケート調査結果報告書(令和2年12月)



山並みの眺望を保全する

### まちの魅力

市民が感じる市の魅力についてのアンケートでは、1位「四季を感じる自然(29.4%)」、2位「災害の少なさ(28.8%)」3位「新幹線や高速IC等の利便性(14.1%)」となっている。

那須塩原市の広報と魅力に関するアンケート調査結果報告書(令和元年9月)

今ある魅力を活かしながら、あらたな魅力を生み出す

## ■市の取り組みとの連携

### アート

黒磯駅周辺から板室温泉までの板室街道沿いを「「ART369」として、アートで地域を盛り上げるプロジェクトが2019年2月に立ち上げられた。これまでに約60名のアーティストが参加し、36回の展示やイベントを行っている。



### サステナブル

2050年のまちのあるべき姿を目指して「ネイチャーポジティブ」「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」の3本柱とそれに基づく環境施策を2023年9月に宣言



### スポーツ

東京2020オリンピック・パラリンピックや2022いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催を契機に、スポーツによる地域づくりを一元的に実施する組織として、スポーツ団体、観光団体、経済団体、医療機関、教育機関等と連携し「那須塩原スポーツコミッション」を2023年9月に設立

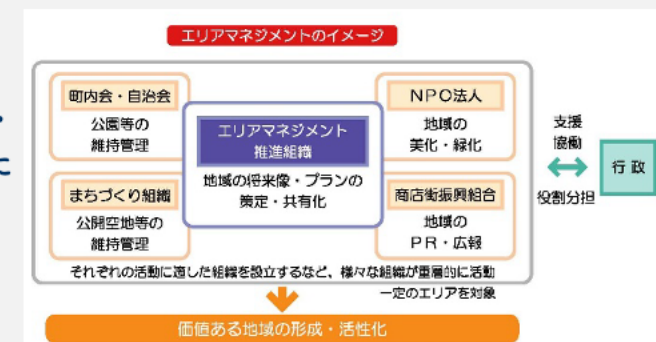


連携を取りながらめざすまちの姿を駅周辺で示す

## ■まちづくりの社会動向

### エリアマネジメント

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための住民・事業主・地権者などによる主体的な取り組み



エリアマネジメントのすすめ(国土交通省土地・水資源局)

使い手とともにまちづくりを考える

## 第1回 まちづくり協議体 2024年3月15日（金）14:00～16:10

### これまでの検討とまちづくりプラン

市政における駅周辺まちづくりの位置付けや市民の意向、社会情勢を踏まえた持続可能なまちづくりへ向けた駅周辺まちづくりビジョン及びまちづくりプランの紹介を事務局より行いました。



### テーマ別にグループワーク

協議体メンバーで、駅周辺まちづくりについて、以下の4つのテーマについて各グループで意見やアイデアを出し合いました。

### 生活・なりわい：エリアの関係者としてあったらいいなという機能や場所を聞かせてください。

【主な意見やアイデア】●集客できる、目玉になるコンテンツ（ライブハウス・コンベンションホール等）●車なしで生活できるまちづくり（電動キックボード等）●子どもの居場所づくり（屋内の遊べる施設等）等

### まちの顔づくり：交通の接点として、まちの入口としてふさわしい空間を聞かせてください。

【主な意見やアイデア】●訪れてもらえる、また訪れたいような仕組みづくり●そのまちを表すショーケースとなる場所●滞在できる拠点●首都機能移転●公共空間等の有効的な活用●デジタルインフラ整備の充実●次世代交通の導入（自動運転バス、地区限定ライドシェア）●車から徒歩・自転車を中心としたライフスタイル（ランニングロード、自転車預託施設）●景観を意識した無電柱化 等

### 歴史文化観光：那須エリア観光の入口として駅前開発に期待することを聞かせてください。

【主な意見やアイデア】●駅周辺を歩けるまちづくり●新幹線1時間に1本をメリットとして捉え、滞在できる拠点づくり●那須のイメージを駅前で感じられる駅前開発●アウトレットエリアとの連動性が重要等

### ライフスタイル・ブランディング：那須塩原独自の生活スタイルを創ることに必要な要素とは？

【主な意見やアイデア】●もともとある那須塩原の良さを生かしていく視点とこれから新しいものを創造していく視点●元からある強み（食、観光、温泉、図書館等）●環境都市としての価値付け（エコ都市、ゼロ・ウェイストのブランド化、自然と都市の循環ブランディング等）●自然との共生（山・川・森・里・国立公園等）●移住者視点（外からの視点、ママ向けシェアオフィス、移住者人材の活用等）●起点（都心へのアクセス、首都圏との近さ、ICが街中にある）●交流（井戸端会議ができる、市民×外の交流、応援する・される、個人商店）●カルチャー（アート・創作できる場、ファッション、祭り・行事・イベント等）●教育環境の向上（特色のある学校を創る、質の高い教育プログラム）●既存イメージの深化（避暑地、ロイヤルロード、那須高原、牧場）●多様性（色々な人がいる、歴史が浅い分受容性）●テクノロジー・ソリューション（スタートアップ支援）

## 第2回 まちづくり協議体 2024年6月12日（水）18:00～20:00

### 協議体アジェンダ（議題）

第1回まちづくり協議体での意見やアイデアをもとに今後の協議体で議論を進める議題として、以下の6点にまとめ、協議体WGにて深度化を図ることとしました。

#01 駅周辺の交通網をどう考えるか？

#02 駅周辺の空間・土地利用をどう考えるか？

#03 駅周辺の拠点施設、ランドマークをどう考えるか？

#04 駅周辺の魅力、コンテンツをどう考えるか？

#05 駅周辺まちづくりの仕組みをどう考えるか？

#06 駅周辺の景観形成、景観維持をどう考えるか？

### 協議体ビジョン（目標）

第1回まちづくり協議体での意見やアイデアをもとに目指す那須塩原駅前の姿として、以下の3つの目標を掲げ、協議体WGの議論を通じて深度化を図ることとしました。

世界中でここにしかない駅前へ

日常的に人が集い、また訪れたい駅前へ

環境、福祉、多様性に本気で取り組む駅前へ



### エリア毎の拠点施設のあり方についてグループワーク

3つの協議体ビジョンを念頭に、協議体メンバーで、駅周辺まちづくりについて、以下の4つのエリアについて拠点施設のあり方などについて各グループで意見やアイデアを出し合いました。

#### 那須塩原駅前西口広場/東那須野大通りエリア

・駅前広場や通りで那須疏水を活用  
・駅前広場にモビリティステーション  
・夜間景観に配慮して夜も歩きやすく  
・緑豊かで子どもたちが遊ぶことができる通り

#### 駅付近エリア

・まちの顔となる場所に相応しい施設  
・市民、企業、学生が交流、利用できる拠点  
・交通拠点機能の配置と低層のビジネス街  
・通勤、通学の途中で立ち寄ることができる  
・日中でも人が滞在する施設  
・眺望を阻害しない整備

#### 駅から新庁舎の間のエリア

・市庁舎を訪れる人も利用できる施設  
・子どもの居場所  
・地元の事業者が出店できる場所、直売所等  
・平日と休日で機能や使い方が異なる施設  
・通勤、通学の途中で立ち寄ることができる  
・シェアオフィス、ワークスペース

#### 新庁舎周辺エリア

・拠点施設と市庁舎を水路でつなぐ  
・モビリティの拠点

第1回 まちづくり協議体WG 2024年8月23日（金）14:00～16:00

拠点施設

景観

駅前デッキの有無

→眺望だけではなく、交通や接続機能といった役割が欲しい

交通計画によってはデッキが歩車分離を実現するための交通施策として有効である。また、来訪者がデッキから那須連山含めた山並みの眺望を楽しんだり、デッキ自体をステージ利用するといったまちづくりに資する活用も想定される。一方、デッキが展望機能のみで周辺施設とのつながりが無いのであれば不要という考え方もあがっている。

駅周辺の高さ制限

→景観保全のためには高さ制限と開発との調整が必要

基本的に、那須塩原駅特有の眺望、景観保全のためには高さ制限が必要である。高さ制限をかけることによって、那須塩原の自然を求めてきた来訪者にその雰囲気を感じてもらうことができる。また、居心地がよく歩きたくなるまちにとっても低層が連なる方が良い。一方、ある程度都市として発展する必要性から商業施設を建てる場合はある程度高さが必要となってくる。

駅前広場の将来像

→歩行者空間を増やし、安全安心で緑豊かな駅前広場を目指す

新幹線を待ちながら楽しく過ごす駅前が良い。子どもが遊べる場所があり、駅前広場のシンボルとなるものを囲んで人が集まっている様子や周辺に木々が広がっている緑豊かなイメージになると良い。

駅周辺の民有地含めた土地利用のあり方

→市庁舎、東那須野大通りとの関係を考慮すること

市庁舎と東那須野大通りのつながりを大切にするために、東那須野大通りに隣接する民有地に建物が建つ際は、角に建物を建てずに視線が抜ける工夫が必要。また、動線や眺望など市庁舎側との関係を生み出すような土地利用が必要である。

拠点施設のあり方

→駅周辺の利用者の特性に合わせた拠点施設が必要

建物は、平日と休日で用途が変わる那須塩原ならではの市民カフェのような施設で、観光客も市民も使えるようなリバーシブルな施設が良い。地元の事業者が出店できたり、週末は観光客も利用できて、夜に人が集まることができる場所が良い。屋外は、豊かな生体環境である水辺があり、ランニングコースなどのスポーツ関連施設があると良い。

疏水の活用

→魅力的な場所にするべく活用することが望ましい

拠点施設は、那須塩原の歴史（開拓、疏水）を感じられるような場所が良い。疏水を活用する発想は悪くないが、那須塩原の土地柄や住民感情も考慮して慎重に判断をする必要がある。もし、活用できた場合は、子どもたちの水遊び場やスケートリンク、市庁舎と東那須野大通りを水路で繋ぎ、蜚や多様な生体環境の創出が期待される。

第2回 まちづくり協議体WG 2024年12月18日（水）15:00～17:30

歩行者動線

土地利用

社会実験の報告

→交通上、大きな問題は感じることなくネガティブな印象はない

交通規制に伴う誘導があり、安全に歩くことができた。実際に現地を車で運転してみたがスムーズに走行できた。日頃から地元に対する様々な意見を耳にするが、今回の社会実験に関してはネガティブな意見を聞くことはなかった。イベント来場者も予想以上に多くの方が訪れ、印象的な体験となり、ポテンシャルを感じた。

現状の交通実態や課題

→利用実態と将来を見据えた交通計画を検討すること

西口ロータリーについては、東西駅前ロータリーの分担や市営駐車場の運用方法など、ピーク性に対応した交通計画が必要。また、利用実態に合わせたロータリー面積の適正化が必要。駐車場については利用者が多い土日の対応、JRと連携した新幹線パーク＆ライドのような駐車場施策の導入の検討が必要。那須塩原駅まで向かう一般車のアクセスについては、周辺交通計画も含め、利用状況に合わせた一般車のアクセスルートの確保が必要。

効果的な民間開発を誘導する段階的まちづくり

→新市庁舎建設時のまちの姿も重要である

新庁舎の建設に合わせた土地利用の動きに十分な注意が必要。特に東那須野大通りに隣接する民地における拠点施設については、その内容次第では計画に大きな影響がある。段階的まちづくりを想定し効果的な民間開発を誘導するためにWellNassHub内で実験的な取り組みを進める。

駅前生活圏

→エリアの中心の設定、ターゲットや目指すまちの姿の言語化

住民の那須塩原駅の利用実態を考慮すると、駅前生活圏の中心は駅ではなくセブンイレブン前交差点が妥当に感じる。那須塩原駅前で歩いて生活するイメージができない。ターゲットや目指すまちの姿の言語化が必要。

駅前生活圏のハブとなるWell Nasu Hub

→Well Nasu Hubを基軸にウォーカブルな駅前を目指す

駅前生活圏の形成を促し、那須エリアの魅力を伝える駅前の基軸として「Well Nasu Hub」エリアを設定。那須塩原駅周辺まちづくりビジョンを体現し先行的に投資を促すエリアとして共有。

歩行者回遊ネットワーク

→駅前の将来像を見据えた歩行者回遊ネットワークの形成を目指す

段階的まちづくりにおいて、Well Nasu Hubエリアにおいて東那須野大通りを中心としたメインの歩行者回遊ネットワークを形成。また、近隣公園との連携を図ったサブ回遊動線を設定し、それらにアクセスする街路をアクセス動線として位置づける。

東那須野大通り・拠点施設候補地の暫定運用

→駅前の将来像を見据えた暫定利用も想定する

周辺の土地利用

→歩行者の回遊性を誘発するアートをまちに点在させるなど

第3回 まちづくり協議体WG 2025年2月18日（金）18:00～20:00

駅周辺の交通計画と将来像

広域にみる駅周辺の位置付け

現状の交通利用状況

- 道路の整備予定
  - ・新幹線側道やアンダーパス、その他都市計画道路がどのように整備予定なのかを確認。
  - ・バス通り（高架沿いのアクセス道路）は拡幅整備などを行うことを確認。
- 周辺道路の混雑状況
  - ・夕方は4号がすごく混んでいるから、経験則でロータリーを通過するルートを自然に選んでいる。
  - ・住んでいるエリアによって東口・西口を使い分けている。
  - ・BIG（ザ・ビッグエクストラ）の前も混んでいるので避ける
- 駅前広場の利用状況
  - ・現状の一般車駐車場は、最近新幹線が来ない時間も昼間も満車。宇都宮など短距離利用の人が長時間駐車しているのではないか。値段は多少高いが駅から近いのが良い。
  - ・バスが集中している時間は最大何本くらい駅前広場にいますのか。

交通体系の方針

→駅から市庁舎までのゾーン(WellNasuHub)において歩行者回遊性を確保する

- ・駅から弥六通りまで車道を横断することなく連続的に歩行者動線を確保する。
- ・駅前広場内に通過交通を発生させない（もしくは軽減する）交通体系を目指す。
- ・東西駅前ロータリーの機能分担と交通手段ごとの適切なロータリー配置を目指す。
- ・将来的には東那須野大通りの全面歩行空間化を視野に入れた交通体系を目指す。
- ・地域内公共交通で駅から市庁舎までのゾーンへのアクセスを向上させる。

東西の駅前広場の役割

→バスの集約を含めた東西駅前広場の役割について改めて検討を行う

- 【東西ロータリーの利用状況】
    - ・住むエリアによって東口・西口を使い分けている印象がある。
    - ・夕方の国道4号における混雑を避けるため、東口から西口に抜ける動線としてロータリーを使っている
    - ・西口市営駐車場は最近、新幹線が来ない時間であっても満車になっていることが多い。値段は周辺駐車場よりも高いが駅近くに止められるため需要が高い。
  - 【質問】
    - ・西口にバスを集約させる場合、バスのピーク性がみられる時間帯では最大で何台停まる状態になるのか。
- （設計JV）送迎バスの滞在時間などが確認できていないので、最大瞬間停車台数はわからないが、昼間のピーク時間帯では15分で15本程度が発着することがある。
- 現時点では、乗降場と待機場を分けることで効率的なスペース運用を想定しているが、必要施設数はこれから検討する。
- 【意見】
    - ・東口ロータリーが便利になるのであれば、駅より西側に住む人が送迎で東口を利用する可能性も大いにあると思うが、そのためには東側の道路整備も必要ではないか。

駅前生活圏での移動

→公共交通へのアクセス向上や地域公共交通の官民連携を目指す

- 【エリア内で公共交通にアクセスできる仕組みづくり】
  - ・駅から市役所やBIGまでのグリスロが新幹線発着と合わせて動くなら、駅前に送迎機能は必ずしも必要なく、市役所やBIGで送迎をすることも考えられるかもしれない。
  - ・グリスロは自転車相当の速度（20km/h）であり多少離れた位置でも許容できる可能性がある。また、徒歩利用においても、駅からの移動に際して、街並みを見る。買い物ができる。などの目的があれば、そこまで遠く感じないかもしれない。
  - ・現状はバス停までが遠い為、駅前生活圏のどこからでも乗れる路線が必要
  - ・Uberなどのライドシェアを活用できないか
  - ・タクシーは朝・夕の需要があるが、昼間の稼働率は低いので交通施策に活用できないか
  - ・アマゾンの輸送と貨客混載
  - ・観光バス（ハンターマウンテン）×地域公共交通
- 【エリア内で公共交通にアクセスできる仕組みづくり】
  - 新幹線時間に合わせて駅⇄新庁舎を行き来するマイクロモビリティ
  - 一般車はWell Nasu Hub の外側の駐車場に置いて連携
- 【エリア内で公共交通にアクセスできる仕組みづくり】
  - 新幹線時間に合わせて駅⇄新庁舎を行き来するマイクロモビリティ
  - 一般車はWellNasuHubの外側の駐車場に置いて連携

協議体ビジョンの深度化

- 那須塩原駅前にあったらいい空間イメージ
    - ・特産物が買える「駅の駅」※観光目的になる場合の大型駐車場対応や、日常利用に対する駐車場対応は課題。
    - ・黒磯民も西那須野民も「わざわざ来なくなる場所」
    - ・「駅前なのに○○」という予想外な機能や景観
    - ・アート369（黒磯）のようなアートに気軽に触れられる場、イルミネーション、足湯、駅前に行けば何かある！
  - 利用層について
    - ・まずは観光客やビジネス客が「楽しそう」と思える空間に。食べまわりできるバル、空や山が大きく見えるカフェなどここにしかない景色。
    - ・地元住民
  - 小学生：疏水を学ぶ（文化の継承）←地域への愛着。将来のIターン・Uターン、自然観察ができる環境。日常的に来る用がある場（お金がかからない）
  - 中高生：スポーツ（バスケットボール、スケボー）
  - 全員：スタンプラリーとかランニング×ゴミ拾い等のイベントとか
  - イベントについて
    - ・外を感じるイベントを定期的にやる（マーケット以外も、ヨガやハンモックなど）
    - ・ホテルが3棟になるため、MAX500人ほどが宿泊可能になる。ビジネスホテルなので平日の利用客が多いので、平日でもイベントが成立するかもしれない。
    - ・1人客だとレストランはハードルが高いので、小さな店に入りたいと聞く
    - ・いつもなんかやっているというのはいい
    - ・地元の子どもがイベントを主催するのもいいかもしれない
  - 景観について
    - ・ホテルの窓から東那須野大通りににぎわいが見えるのがよい。ミラコスタのような。
    - ・GREEN SPRINGSの水辺のように疏水を生かした（≒水をとり入れた空間で）子どもが楽しい遊び場※駅前には大きな公園で大きな遊具が必要なわけではない。
  - その他
    - ・ブランドニットのコンセプトが体现できるまちだといい
- 移住者インタビュー「あの人が助けてくれたからいまいる」
- チャレンジング那須塩原 エール那須塩原

## #01

## 駅周辺の交通網をどう考えるか？

- ① 駅から弥六通りまで車道を横断せず歩行者動線をつなぎ、ウォーカブル推進ゾーン内の歩行者回遊動線を確保
- ② 駅前広場内に通過交通を発生させない（もしくは軽減できる）交通体系の確立
- ③ 東西駅前ロータリーの機能分担と交通モードごとの適切なロータリー内配置
- ④ 将来的な東那須野大通りの全面歩行空間化を想定
- ⑤ ウォーカブル推進ゾーンへのアクセス向上させる地域内公共交通再編
- ⑥ 駅まち生活エリアへの移動手段として2次交通の導入を検討

車を持たない人でも暮らせる・  
過ごせる駅前の実現

## #04

## 駅周辺の魅力、コンテンツをどう考えるか？

- ① 環境都市としての価値づけを強化するための取り組み
- ② 自然、食、温泉、避暑地、ロイヤルロード、那須疏水などの既存イメージの強化とアートなどの新たなイメージの創出
- ③ 移住しやすい、働きやすい街として強化
- ④ 教育環境を向上するためのコンテンツ
- ⑤ 多様性を受容する街としての取り組み

居心地が良く歩きたくなるまち

## #02

## 駅周辺の空間・土地利用をどう考えるか？

- ① 駅まち生活エリアの確立に向けた段階的な整備
- ② 東那須野大通りの緑地化を図り、駅から弥六通りまでを歩行者空間としてつなぐ
- ③ 自然を感じられ、居心地のよい駅前広場整備
- ④ 東那須野大通りと一体的に行う新庁舎隣接地のにぎわい拠点整備
- ⑤ 近隣公園や遊歩道など既存ストックとの連携
- ⑥ 駐車場施策

ウォーカブル推進ゾーンと駅まち  
生活エリアの設定

## #05

## 駅周辺まちづくりの仕組みをどう考えるか？

- ① 地元民間発意によるまちづくり
- ② 公民連携したまちづくりの推進
- ③ テクノロジー、デジタルインフラの活用
- ④ あらゆる立場の人が交流できる仕組み
- ⑤ 情報発信、プロモーションの仕組み

エリアマネジメント  
公民連携のまちづくり

## #03

## 駅周辺の拠点施設、ランドマークをどう考えるか？

- ① 平日と休日で使われ方の異なる那須塩原の特色を活かした集客施設整備
- ② 学生やこどもの居場所づくり
- ③ アートワークの点在など歩行者の回遊性を向上させるきっかけづくり

まちまか拠点の活性化・強靱化

## #06

## 駅周辺の景観形成、景観維持をどう考えるか？

- ① 駅からの良好な山並み景観の維持と駅前民有地の開発が両立するルールづくりの検討
- ② 景観形成、景観維持へ向けた地区全体での取り組みの検討（地区計画の見直し等）
- ③ まちなかの夜間景観創出

景観計画の更新  
『優良緑地確保計画認定制度』